



## ラオス 山岳少数民族 AEFA第1期奨学生 いよいよ先生に！ ふるさとの教壇に立つ日を夢見て・・・

2010－2011年度から、サラワン県教員養成短大にて、小学校の先生を目指して勉強していた山岳地帯タオイ郡出身のAEFA第1期奨学生たち。中学校卒業後、慣れない街の生活に戸惑いながらも、3人で力を合わせて乗り越えてきました。

2013年6月、無事3年間の課程を修了、卒業試験に合格！卒業式の晴れの日を迎えることができました。3人の誇らしげな表情に、達成感と自信がのぞきます。村人たちも、3人の成果を誇りに思い、祝福しています。

9月の新年度より、ピカピカの新任教員として、それぞれの故郷の小学校の教壇に立ちます！

3人の出身地である山岳地帯タオイ郡は、ホーチミンルートが通っていたことから、ベトナム戦争時の爆撃や枯葉剤被害が多く残っています。ベトナム・ダナン市までの幹線道路が開通、公共バスも通るなどアクセスは飛躍的によくなりましたが、道路から一本入れば、以前と変わらない泥道の奥に小さな村と分校が点在しています。同郡ジョー地区の中心基幹校が、パチュドン小中学校(2005年～AEFA建設校)です。クム君たち3人も、ジョー地区出身。彼らの後姿を追って、もっと勉強を続けたい！知識をつけて、地域の発展に役立ちたい！先生になりたい！と夢をもつ生徒が増えています。



左より)クム君、ケオペット君、ダム君

### ■ケオペット君からのメッセージ■

「私は学校の、そして村の親切な先生になり、友だちや村長や村人の声に耳を傾けます。私の学校が少しずつ、良い模範となっていくように、気を配り最善を尽くし、生徒たちを熱心に教えます。子どもたちが将来、次世代を担う良き若者に育つように、私は彼らに2つの基本的なスキルである「読み」「書き」を教えます。私の誓いとして、お約束いたします。」

### ■子どもの夢を応援して下さい■



AEFAは、学校建設だけでなく、真の「学びの場」とするために、先生の研修会や、山岳少数民族出身の教員を育てる奨学金事業に注力しています。しかしながら、このような人を育てる事業への支援は不足しており、進学を希望する生徒を全員受け入れられないのが現状です。

山岳地帯(少数民族居住エリア)であるタオイ郡で活動する日本のNGOは、AEFAだけ。

山の学校の子どもの夢を大きく育てるために・・・皆様のご理解とご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

お振込先:三菱東京UFJ銀行 田町支店 普通 0018930  
 特定非営利活動法人 アジア教育友好協会

### ひとこと

### AEFAの生命力「嬉し涙の製造所」

何時の頃からか、AEFAはそれ自体が生命を持っていると感じるようになった。実に逞しい生命力なのだ。これまで何度も困難に遭遇してきた。もう、駄目かなと思ったことも一再ならずある。それが、不思議にもある種の「時が満ちて」条件が整うのだ。実に不思議である。ただもう、AEFAが独自の力と生命力で、私たちを働かせているとしか言いようがない。

こうしてあっという間に9年間に過ぎた。振り返ると、そこに存在する数多くの出会いと大きな輪＝和の広がりを感じることが出来る。今後も、より多くの困難と出会いがあるだろう。AEFAは、応援して下さる多くの人たちの嬉し涙・共感の涙を製造する「嬉し涙製造所」でありたい。そのたびに、みなさんと共にうれし涙をこぼす私である。(理事長 谷川 洋)



# 第一回 AEFA 会員の集い

～ 2013年3月20日 ～

ご支援者さま、会員の皆さま、AEFAボランティアさんなど総勢70名にも及び皆様が集まり、お互いに親交を深めました。会場は和気藹々とした空気に包まれ、初対面の方とも話はずむ楽しいひとときとなりました♪



### ◆基調講演◆

坂東 眞理子様（昭和女子大学学長）

「女性の品格」という本がベストセラーとなり、講演会などでもお話をさせていただいています。

本の売り上げや講演料などを「何か良いことに使いたい」と思っていたところ、ちょうど旧知のAEFA谷川理事長から連絡をいただき「ベトナムの子ども達の教育のために使いたい」と思いました。

私の所属する昭和女子大学は、長い間ベトナム中部にある世界遺産「ホイアン」の街並み保存に寄与しています。また、日本とベトナムは朱印船貿易の昔からつながりの深い国です。

昨年の開校式では子ども達のまぶしい笑顔に出会いました。支援した校舎で子ども達がすくすくと育ち、将来は日本とベトナムとの懸け橋となるような人材となっていくことを願ってやみません。  
(この講演料もベトナムの学校建設のためにご寄付頂きました)

\*\*\*\*\*



至るところで  
小さな輪が！初めて  
の人ともすぐに打ち解  
けているんな話題で  
もりあがりました！



理事長からのAEFA活動紹介も！



昨年10月に、支援した学校の開校式のためにベトナムに行きました。みんなでお昼ご飯を食べようと、その日は子ども達にもお弁当を配りました。「いただきます」と食べ始めて、2-3口食べたところで、子ども達は食べるのをやめてしてしまいました。「おいしくないのかな？」と思って聞いたところ、「家で待っている弟や妹たちのために持って帰るんだ」との一言にびっくり。その言葉を聞いた時に「このような優しい気持ちをもった子ども達のためにこの学校を支援してよかった」と心から思いました。

◆早川様 (学校建設支援)



息子がラオスを支援しています。母親として自分もできる支援をしたいと思い、井戸基金を毎月積み立てています。

◆N様 (井戸支援)



日本では夢のマイホームといわれます。当社のお客様がその夢を叶えて家を作る時に、ご賛同いただいた資金の一部をベトナムの子ども達の「学びたい」という夢も叶えるための学校建設に使わせて頂いています。日本・ベトナム・そして世界中の人がお互いを思う気持ちを持ち続けられるように。これからも沢山の夢を叶えられるようにできる限りの支援をしていきます。

◆㈱サンキューホールディングス 吉原様 (学校建設支援)

同じ時代に生きているアジアの子ども達がどのような暮らしをしているかを体験してほしくて、小学5年生の息子連れて昨年ラオスに行きました。現地の子供達と直接触れ合い、様々なことを肌で感じたようです。

◆小澤様 (幼稚園建設支援)



日本とアジアの子ども達のお手紙などの翻訳を手伝っています。両者の思いをつなぐ役割を果たしていることが嬉しいです。◆八戸様 (翻訳ボランティア)

昨年11月にラオスを訪問し、実際に支援している師範学生達に会って感激しました。みんな自分の夢に向かって努力している。その姿を見て私も「もっともっと頑張らなくっちゃ」と刺激されました。これからも、あの奨学生たちの夢を叶える応援をしていきたいと思

◆津金様 (奨学金支援)



多くのご支援者様、ボランティアさんの思いにAEFAの活動を支えて頂いていることを実感した一日でした。時期をみて第二回も開催したいと思います！今回来られなかった皆様、ぜひ次回ご参加ください★



## 2013年は日越友好年 (日本ベトナム外交関係樹立40周年)

AEFAでは、日越友好年の認定事業としてドンナイ省ビエンホア市にてグエンチーティン小学校の校舎増設を行っています。ビエンホア市には日本や海外から数多くの企業が進出し、工場で働く労働者の子ども数が急速に増加。この学校では2557人の子ども達が午前・午後・夕方の3部制で授業を行っている状況です。1日2時間半しか勉強できていませんでした。今回の校舎の増設により、子ども達の学習時間が増加し、より勉強に集中できる環境が整います！9月23日の開校式にむけて、順調に工事がすすんでいます。



このプロジェクトは日越友好年の記念とすべく、日本、ベトナム両国の企業・篤志家だけでなく、日本の子どもたち、ベトナムの子どもたちみんなの力で新校舎建設に向けて取り組んでいます。40周年の記念となる充実したプロジェクトとなるようにみんなで力を合わせて取り組んでいます。  
ビエンホア副市長(写真左)とも協力を約束



### 固い絆で結ばれたふたり ～ファン・ポイ・チャウを支えた浅羽佐喜太郎～



ファン・ポイ・チャウ (1867-1940)  
ベトナム中部ゲアン省生まれ。1905年初来日。大国ロシアを破った日本に学ぼうと、“東遊運動(ベトナム青年の日本留学の運動)”を展開するものの、当時ベトナムを植民地化していたフランス政府の圧力がかかり日本を国外退去。孫文の辛亥革命を見て、1912年広州でベトナム光復会を結成し祖国の開放を目指す。1925年上海で仏官憲に捕まり、その後ベトナムのフエで幽閉生活のまま死去。初代国家主席のホーチミンとともに、独立の英雄として今も慕われている。



浅羽佐喜太郎(1867-1910)  
静岡県袋井市(旧浅羽町)生まれ。帝国大学医科大学卒業。医師。神奈川県国府津で病院を開業。病院でベトナム人留学生を寝泊りさせているなど、生活面でも、彼らの暮らしを支えていた。

佐喜太郎とベトナム人留学生との交流のきっかけは東京の路上で行き倒れていたあるベトナム人留学生を助けたことといわれています。佐喜太郎はベトナム人留学生を物心ともに支え、彼らから慕われていました。

独立運動のための資金も底をついたチャウは悩んだ末に佐喜太郎に窮状を訴え援助をお願いします。佐喜太郎からは返信とともに1700円という大金が添えられていました(当時の小学校校長の給料は18円)。1908年国外退去となったチャウ。浅羽邸を訪問し、支援のお礼と別れを告げました。

1918年、チャウは再来日しますが、その時既に佐喜太郎は病死。恩人の死を知ったチャウは監視の目を逃れ墓参りに訪れました。御恩を忘れず、感謝の気持ちあらかずのために村人の協力を得ながら墓前に記念碑を建てたチャウ。この記念碑は佐喜太郎の墓所静岡県袋井市梅山の常林寺に今も残っています。



日越友好年を記念して二人の物語「The Partner ~愛しき100年の友へ～」が日越両国で放映されます。是非ご覧下さい！(TBS系9月放送予定)

参考文献:「ベトナム独立への道」  
浅羽佐喜太郎記念碑に秘められた東遊運動の歴史

★静岡県袋井市のいくつかの小学校では、ファン・ポイ・チャウの故郷であるベトナムのフエに学校を建てる「ワンコイン・スクールプロジェクトがスタートしています。

# AEFA奨学生家庭訪問 ～キム・ニエム君&フォン君兄弟～



左:フォン(12歳)、右:ニエム(14歳)

僕は、毎日学校に行く前はお掃除、料理、洗濯などの家事を手伝っています。放課後は魚を釣って売って、家計の足しにしています。家族を助けるために一度学校をやめて働いていたので、14歳ですがまだ小学生です。奨学金のお陰で再び小学校へ通えるようになりました。今は弟のフォンと同じ5年生のクラスで勉強しています。算数が好きなので、将来は算数を教えられたら良いなあ。もし、来年も奨学金をもらうことができれば、中学に進学して勉強を続けたいです。



お水は隣からの貰い水。甕に貯めて大切に使用。



台所

## ◆家庭環境◆

父親は日雇いの建設業のため、日々の収入は不安定。母親は病気で他界。9人の子供達(1番上は20歳、下は5歳)がいる。父親、長男、次男の稼ぎ(月平均20000円程度)で10人を養う。9人中4人は途中で中退し、長男、次男は労働者に、三男は僧侶、長女は母親代わりに家事を行う。ニエム&フォン、双子の妹たちの4人が奨学金のお陰で学校に通学できている。



## ★9月の新年度より奨学金支援額が変わります

◆小学生/中学生…1人あたり15000円(年間)、◆高校生…1人あたり25000円(年間)

奨学金支援といっても現金ではなく、その分の労働力をお米で支給しています(子どもが労働力となり学校をやめてしまうのを防止します)。また、一人当たりの支援額を増やし、文房具や遠方通学者のための寮費、緊急時の医療費などきめ細かいサポートをしていきます。1ヶ月1200～2000円程度のご支援で、1人の子供を1年間学校に通わせることができます。お気軽にお問い合わせ下さい！



## ☆ベトナムとある風景☆

ベトナム中部高原にあるダクトカン小学校ダックブロン分校(2011年建設)。学校をきれいに使おうと、お母さん達が小さい子どもを抱えて草取りに励んでいる写真が現地より届きました！

2012年の終わりには保護者や村人がお金を出し合い、学校の周りにフェンスを取り付け子ども達が安心して遊べる環境を整えたとのこと。乾季で水不足になれば村の人たちが水を運んでくれているそうです。まさに村人が一体となって学校を育てていこうと努力している村です。



## いわき生徒会長サミット「笑顔の世界の架け橋に！」 タイ ワンコイン・スクールプロジェクト

2013年4月、2年目を迎えた「ワンコイン・スクールプロジェクト」。

いわきの中学生が、震災のときに世界中から受けた支援と応援への感謝の気持ちと、元気と復興を発信するために、タイの山奥のファイコン中学校を支援しています。「生徒会長サミットの活動をしたい！」「サミットの仲間に入りたい！」という志願者が増え、活動はさらに活発に。7月29日に行われた第3回全体ミーティングでは、プロジェクトを達成するための意見やアイディアが賑やかに交換されていました。シニア会員の先輩たちも継続してかわわり、アドバイス。ともに、プロジェクトを作っています。

前号でお伝えできなかった各学校の取り組みと、タイ・ファイコン校の最新状況をお届けします！

### ☆豊間中学校

「校内で募金活動を行いました。また、これまでに頂いた支援の恩返しをしようと、文化祭で生徒会バザーを開催。木にマジックでイラストを描き、マグネットをつけて、1個100円で販売しました。個数を作らなくてはいけないので、役割分担して頑張りました。」  
(伊藤先生談)



かわいい手描きのイラストつきマグネは、AEFA事務所でも大人気です！

### ☆小白井中学校

「全校生徒7名の小規模校ですが、生徒会長を中心に活動を進めることができました。みんなで活動できるように、オリジナル頑張りカードを夏休み中に取り組みました。内容は、部活動の目標バドミントン・スマッシュの練習など。家では家事活動、早起きなど。本校の活動が、募金で建設されるタイの子どもたちに伝わっていけば幸いです。」  
(小林先生談)



### ☆泉中学校

「古本・プルタブ回収、地域のスーパーで募金活動などを行いました。被災してお世話になったことを、色んな人に感謝の気持ちをこめて表すために、生徒たちは一生懸命、頑張りました。」  
(大井川先生談)

### ☆ 湯本第三中学校

同校では、先生・生徒・保護者が共通理解したうえで活動を実施するにあたり、計画の練り直しが何度も必要だったとのこと。カード運動の他にも、ペットボトル・古紙・アルミ缶の収集も新たに開始しました。でも、とても目標金額には到達しないので、「自分の頑張りを人のためにするには、お金にするにはどうしたらよいか？」と、何度も話し合いをもちました。他校の取り組みも参考にし、その結果、「すまいるプロジェクト」と名付け、2週間の期間中に自分の頑張り＆人のためになることを1項目50円で設定。共通項目20として、お手伝い(皿洗い・洗濯物を干す)、給食を残さない等を設定。みんなが理解・納得できる形になりました。活動を広めるために、生徒たちが台本を作ったCMを全校に紹介したり、色々工夫を重ねたそうです。

活動の中で、生徒からはタイの中学校との交流など、「その後」が楽しみ、との声がたくさん。「ファイコン中学校にはどんな子がいるの？」「どんな勉強や生活をしているんだろう？」と、とても気になっているとのこと。

### ☆小名浜第一中学校

震災時の応援から交流が始まった、京都市西賀茂中学校とのコラボレーションで、オリジナルTシャツを作成。デザインを両校がそれぞれ担当し、西賀茂中は京都伝統の西陣織風のネクタイと「継」の文字を胸に。小名浜第一中は、手をつないだ人々が輪になって、スマイルを囲むデザインを考えました。バザーでの売り上げの一部を、タイの学校建設のために支援いただいています。



# いわき生徒会長サミット全体ミーティング 0(ゼロ)からのスタート。いわきとタイの中学生の頑張り！



7月29日に開催された、第3回全体ミーティングにAEFAも参加。ファイコン校からのビデオメッセージや、学校の様子を紹介しました。「村に象はいますか？」「学校で、十分な文房具や教材やありますか？」など、質問も次々に出て、みなさんの熱意を感じました。

全体ミーティングでは、現状報告や取り組み方の共通理解、課題の共有化などを図っています。一人ひとりが頑張ること・我慢することなどの目標を決めて取り組み、それらをもとにして募金する「カード運動」を中心にしながら、生徒会長サミットとして取り組む「オリジナルグッズ販売」について熱心に話し合う姿が、中学生の情熱の素晴らしさを物語っていました。

また、自分たちの努力でプレゼントするタイ・ファイコン中学校に「心のこもった壁面モザイクアートを贈りたい。」と、デザインを考えています。44校の生徒会長が5つのグループに分かれて、積極的に多くのアイデアを出し合いながら話し合う様子には、少しの迷いも感じられませんでした。「その陰には、昨年生徒会長であり、高等学校へ進学したシニア会員の助言が大きかった。」と、担当の平山明裕先生。

今回のミーティングにも、数名のシニアが参加、「一人一人が自分の問題として取り組む姿勢が大切だと思います。」と、鋭い助言をする一場面もありました。

ファイコン校は、6月には約8割が完成。年内には完成



建設が進むファイコン  
中学校の新校舎



のメドが立ってきました。

同校では、川に簡易ダムを設けて水の流れを調整、水資源や水生生物を保護したり、自然と環境を考える活動。山岳少数民族カレン族の伝統を大事にする授業（織物・音楽・言葉）も行われています。

また、「学校は建物としても大切にするが、学校の中身も、さらに良いものにしたい。」というファイコン中学校の生徒たちの思いが、メッセージとして届いています。

### ◆ファイコンから託されたメッセージカード◆

**「みなさんはお金を集めて私たちに新校舎を建ててくださっています。私たちはみなさんのその温かい気持ちを忘れません。勉強をがんばり、立派な人になりますので、どうか、いつの日かファイコン校の私たちに訪ねてきてくださいね。」**



第3回全体会の様子



ファイコン中学校の生徒



石を金網に詰め簡易ダム造り

## 「ワンコイン・スクールプロジェクト」の輪が、全国へ・・・ 福井県丸岡中・丸岡南中へと広がっています

福井県の丸岡中と丸岡南中では、数年前からワンコイン・スクールプロジェクトに取り組んでおり、今回はいわき市の生徒会長サミットを同じ中学生として応援したいとの声があがっています。

丸岡中では地元のマラソン大会の時に生徒たち手作りの旗や幟を持って募金活動を実施。「一番人が足を止めてくれるところはどこだろう？」とみんなで考えた結果、ゴール地点のトイレの近くで呼びかけたところ多くのランナーが足を止め、活動に関心をもってくれたそうです。

丸岡南中学校では今年もボランティア活動、福祉活動、地域の行事への参加などの様々な活動に取り組みながら、共々委員会の生徒たちを中心にアジアの子ども達の教育環境の整備に取り組んでいきます。



丸岡中



丸岡南中 共々委員会



# 日本ってどんな国？ ～ベトナムの教室にて～

AEFAでは、日本の学校でベトナムやラオスのフレンドシップ校（姉妹校）のために作った交流作品を、スタッフ自ら現地に持って行き、子どもたちに直接紹介しています。もちろん現地からのお返しの交流作品も日本に持ち帰り、現地の様子と共にお届けしています。こうした顔の見える交流を経て、想いを繋ぐことができるのです。ベトナムでの出前授業の様子、子どもたちの反応をご覧ください！生活が苦しい地域の子どもたちも、日本のお友達から作品が届くこの日を待ちわびています。日本のお友達と繋がっているということが、この子たちに大きな勇気や活力を与えているのかもしれない。

## 日本・文化紹介

TVやインターネット等がないので、日本がどういう国か情報がありません。そのため、日本の国や文化を紙芝居形式で紹介。浴衣体験は大人気！



初めての浴衣体験



日本の国旗はこれ！

あれ？！



東京の景色はどれかな？

お相撲さんって大きいー！



## 交流作品紹介

日本の子どもたちが、ベトナムのお友達のために作成した交流作品をAEFAスタッフが紹介、想いを届けます。



大きな木の下での授業



日本の子どもが描いた雪の絵ですよ！



雪ってなーに？



授業を見に集まってきました♪



またねーー♪



日本のお友達の作品を楽しみにしてます！



またね～という日本語が大流行♪

# 日本とアジアの子どもたちを繋ぐ 手作り交流作品

大人気!!!  
日本の子どもたちの  
手作りおもちゃ

ぶんぶんごま  
楽しい!

ほくも  
遊びたい!



東京都高輪台小  
→ チュー・オレン小  
ぶんぶんごま、しゅりけん、  
さいころなど、手作りのおもちゃ

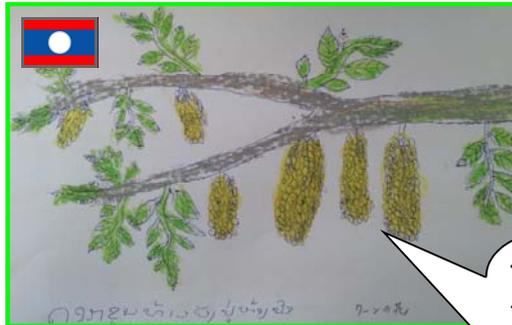


福井県三国北小  
→ ルホンフォン・コンダオ小  
ストローから息を吹き込むと  
飛び出すロケット

福井県平章小  
→ ダックロオン小  
魚の背中に「シンチャオ」!  
ベトナム語で「こんにちは」



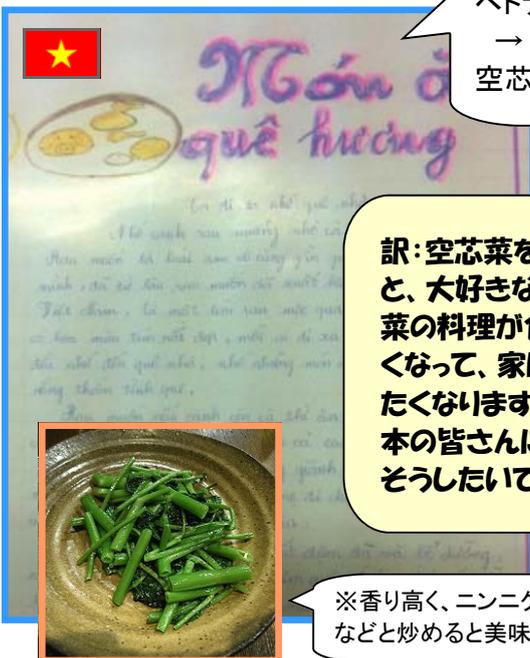
素朴でカワイイ!  
アジアの子どもたちの  
手作り作品



クーンの花

ラオス チャンヌア小  
→ 東京都武蔵村山第十小  
4月のラオス正月を祝う花  
「クーン」。黄色なので、金  
運・繁栄を意味する、めでた  
い花とされています。

ベトナム タンホアA小  
→ 東京都国立第七小  
空芯菜(くうしんさい)の紹介。



訳: 空芯菜を見ると、大好きな空芯  
菜の料理が食べた  
くなって、家に帰ら  
たくないです! 日  
本の皆さんにごち  
そうしたいです!

※香り高く、ニンニクや唐辛子  
などと炒めると美味しいです。



タイ ファイコン小  
→ 福島県いわき市の中学校  
タイ語と英語でメッセージ

◆◆今年もベトナムの友だちのお話を聞かせて！福井県 出前授業◆◆



坂井市三国北小



大野市乾側小



勝山市村岡小

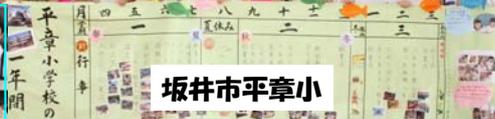
7月3日から5日にかけて、福井県の小学校6校、中学校2校を回り、毎年恒例の出前授業を行いました。2013年はベトナムと日本の友好年という記念すべき年です。授業では、ベトナムの国について・日本とベトナムの友好の歴史について紹介。また、今も尚、平地の都市部とはかけ離れた厳しい生活を送る山岳少数民族の子ども達の様子を、スライドを使ってお話ししました。

東日本大震災の際、山岳少数民族の村にもその知らせが届くと、お金がない中、村人や子ども達が大切なお米やニワトリなどの財産を寄付してくれました。その様子を紹介すると、こんな感想が寄せられました。

僕は、ベトナムの子どもたちが、せいぜい食べていける命のお米を、自分たちがぎせいになってまで、日本を助けてくれたという話を聞いて、正直泣きそうになりました。だからこれからもずっと、そういう助け合いが続くと、とてもいいと思ったし、そんな世界になると、もっといい世の中になるんじゃないかと、心から強く思いました。  
(河和田小5年生)



鯖江市河和田小



坂井市平章小



勝山市成器西小

◆◆◆◆◆ その他の出前授業 ◆◆◆◆◆



◆温かい反応◆

埼玉県さいたま市立植水小



◆授業後の生徒たちの想い◆

千葉県浦安市立浦安中



◆日本財団「学7口」◆

筑波大学付属坂戸高校

ベトナムの山岳地域の子どもたちの生活について学びました。授業後、植水小の子どもたちがAEFAスタッフの元に駆け寄り、「このペンをベトナムの友達に届けて欲しい」と、自分の筆箱の中から大切にしている文房具を手渡してくれました。

「今日の授業で自分中心である生活をしている自分が情けなくなり、ほかの人のことを考えて生活していくことが必要であると思った。まず、使いたい放題使っている電気や水の使用を改めようと思う。アジアの子供たちから日本人の私たちも学ぶことがたくさんあると思った。」

「社会を変える人になる」～学プロとは、日本財団が学校教育向けに提供。たとえもたらず変化が小さくとも、社会を変えるために行動できる人を育てるプログラムです。6月15日、川越駅前で2年生がベトナムの子ども達のために募金活動。寄金は、黒板セットや運動用具として届けられます。



# ラオス・イルン村の物語

## 建設から7年。子ども達・学校の成長と、学校を中心とした村の発展

### ●2006年 イルン村に学校ができる

イルン村は、バナナ栽培で生計をたてる小さな村。2006年、村で初めての小学校(3.5教室)が誕生しました(石原拓一郎様ご支援)。

それまでは、5km離れた本校(ヴァンプアイ小学校)に歩いて通いますが、雨が激しく道のぬかるみがひどい時期は、休みがちに。勉強についていけなくなって、ドロップアウトしてしまう子どもも。

これまで、外界との接触が無く自給自足で暮らしてきた村人の中には、当初は教育の必要性を理解できず、学校建設に消極的な人も。

そこで、学校プロジェクトが始まってから、村長を中心に何回も話し合いをもちました。村をグループ分けしてローテーションを組み、学校建設工事に協力。お米の収穫時期には、建設を手伝っているグループの家の田んぼも代わりに刈ってあげるなど、村の団結力も高まりました。また、作業に関わることで、セメントを基礎に使って丈夫な家を作る建築技術も習得。



「学校が出来て、子どもが礼儀正しくなったわ」「毎日学校であったことを楽しそうに話していますよ」子ども達が変わっていくのを見て、村人たちの笑顔も増えました。

イルン小学校の初代の先生は、歌やラオスの踊りが得意なナリー先生。放課後や休み時間に子どもたちに教え、その時間が楽しみで、学校がもっと大好きに！実家を離れ、イルン村で生活するナリー先生のために村人が家を建てたり、バナナやお米を持ち寄るなど、支援しました。

イルン小学校の初代の先生は、歌やラオスの踊りが得意なナリー先生。放課後や休み時間に子どもたちに教え、その時間が楽しみで、学校がもっと大好きに！実家を離れ、イルン村で生活するナリー先生のために村人が家を建てたり、バナナやお米を持ち寄るなど、支援しました。

### ●子どもたちが学んだこと

学校ができて、子どもたちが学んだことは読み書きのほかにもたくさんあります。

- ・挿し木や接ぎ木の技術をもつ村人から、農業を学ぶ
- ・NGOスタッフからキノコの栽培法を学ぶ

(キノコは森に行かなくては採れない貴重品。栽培法を学べば、市場で高く売ることができます。)

子どもたちも、稲ワラを使ってキノコの苗作りを頑張りました。最初の数年は、ペプシを飲んだことがないから、どうしても飲んでみたい！と、売上のほとんどがジュース

代に消えてしまったこともあるそうですが、今では学校で必要な教材や文房具を買える利益が出ています。

村人からは、果樹の苗を育てて売り、学校運営費を更に作りだそう、という案が出ています。



### ●2011年さらなる支援で村おこしの活動はより活発に

2011年2月には、村の集会所(コミュニティラーニングセンター)が同じく石原様のご支援により完成。村を発展させるための活動の場です。自分たちの村を、自らの力でよくしていこうとする話し合いや活動は、更に活発になっています。

「今では、村をよくするためには教育が一番大切だと考えています。学校のために使えるお金を増やすために、果樹苗や養魚などのプロジェクトをぜひやりたい」(村人代表談)

このように、小学校建設がきっかけとなって村人の意識が変わり、学校運営はもちろんのこと、自らの力で村を発展させようと動き出しています。

2006年当時の小学生達も、今では中学生(2012年建設のヴァンプアイ中学校)。イルン小学校の先生となるために教員養成短大に進学したいと希望する生徒も。次の世代を担う子ども達が、学校を中心とした活動を引き継いでいくことでしょう。



接ぎ木を習う(上)  
キノコの苗作り(下)



大きく  
なったよ！



初訪問時、村人、特に子どもの目がすごく輝いてキレイに澄んで見えました。眼鏡を拭き直した程です。5年後再訪問した際、村の変化に目頭が熱くなりました。これからも村の成長を見守っていきます(イルン小学校ご支援 石原様)

◆ AEFA往来 2013.3～2013.8 ◆

- |                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>3月 ● 株式会社近江兄弟社にて理事長講演(22日)<br/>● AEFA会員の集い開催(20日)</p> <p>4月 ● 新体制発足(宍戸・山田参加)<br/>● AEFA勉強会(17日)</p> <p>5月 ● ラオス・ヴァンパイ中学校開校式(29日)<br/>● AEFA勉強会(22日)</p> <p>6月 ● カンボジアKIZUNAプロジェクト師範学生による<br/>タイ・ファイコン学校視察ツアー</p> | <p>7月 ● 福井県交流校にて出前授業(3-5日)<br/>● 東京都教育委員会訪問(17日)<br/>● いわき生徒会長サミット第3回全体ミーティング参加<br/>ワコイン・スクールプロジェクトについて話し合い(29日)</p> <p>8月 ● 第40回全海研(全国海外子女教育国際理解教育<br/>研究協議会)全国大会参加・発表(2日)</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

ラオス・ヴァンパイ中学校開校式！  
2013年5月29日 ダイリキ株式会社様

中学校が整備され、ラオガム地域の教育環境の充実に寄与

5月29日、サラワン県ラオガム郡ヴァンパイ中学校開校式を開催。「食肉のプロフェッショナル」ダイリキ株式会社様(本社・大阪)のご支援で、6.5教室、二重屋根の立派な校舎が完成しました。

同校は地域の中心基幹校で、16の村から395人の生徒が通っています。これまでは、中学は小学校を間借り、教室不足に悩んでいました。特に人数の多い中学1年生は、100人を超える生徒が仮校舎でぎゅうぎゅう詰めで勉強していました。ダイリキ様のご支援がきっかけとなり、政府から追加校舎支援が決定。

新たに用意された学校用地に、ダイリキ様ご支援の鉄筋・木造校舎と、政府支援の校舎が新築されました。

このことにより、ヴァンパイ地域の生徒が、中等教育を修了できる環境が整いました。

2006年度AEFA建設校のイルン小学校(P11参照)からも、生徒が通っています。開校式には、同社より高橋社長様が参列。「共に学び、共に遊び、思い出をこの校舎と共に作ってください。その経験が、皆さんの将来の夢の実現の糧となりますように願っています。」とのご挨拶を頂きました。



高橋社長様 (右)



(右より)  
石橋社長様  
AEFA理事長 谷川  
糸谷副社長様  
岩見常務取締役様

エルセラーン化粧品株式会社の石橋社長様は、ボランティア活動を行うために会社を創立。そのボランティア活動の実践団体として、エルセラーン1%クラブを組織しました。

2009年から、世界中で50校を建設。日本全国で活動を共にするボランティアキャプテンの方々と、気持ちを一つに、次なる目標の100校

エルセラーン化粧品株式会社様と  
学校建設プロジェクトが始まります

に向けて、現在も急ピッチで学校建設を展開されています。

2013年からAEFAとベトナムでの学校建設が決定。エルセラーン様として、新しいエリアでの学校プロジェクトが始まります。

50校完成記念式典→



全海研全国大会で発表 ～出前授業・教材提供の充実へ向けて～



8月2日(金)に、東京で開催された全海研第40回大会(全国海外子女教育国際理解教育研究協議大会東京大会)に参加、「アジア少数民族の子供たちとの交流を通じて」と題して発表しました。

これまで蓄えた資料(画像・動画・生活雑貨など)を教材として出前授業を充実させ、また、授業づくり・授業研究会・研修会などで、各学校の授業等のお手伝いを積極的にしていきたいと考えています。



認定NPO法人 アジア教育友好協会 AEFA (アエファ) Asian Education and Friendship Association  
〒105-0014 東京都港区芝3-3-10 芝園オーシャンビル8F

TEL 03-6426-0720 FAX 03-6426-0721 Email: asia@nippon-aeфа.org URL: http://www.nippon-aeфа.org